



夏休み終わる

夏休み前の号に、

まずは「量」をこなすこと。あの「学習記録」の表を塗りつぶし始めると、意地でも塗りつぶしたくなって、それで勉強時間を無理矢理作るみたいなことになる。それでイイのである。真っ黒な表を期待したい。と書いたが、さてどうだったろう？ 27日に劇の練習を覗いた時、●●くんは「先生、あと2時間です」と言っていた。28日のリハーサルの際には、●●さんが「400時間は達成できそうですなんですが、内容が…」と言っていた。思い通りに復習が進まなかったらしいのだが、とりあえず「量」としての目標が達成できたとしたら立派である。

残念ながら目標値に届かなかったという人もいるに違いない。それはそれで仕方ない。400時間は目標であって、そんなに簡単に達成できる数字ではない。しかし、達成できなかった人は、その理由を誠実に振り返ってみることが大切だ。そこで見つかった理由を直視して、その克服を目指すことが、秋以降の実力伸張のキーとからである。

*

夏休み前の号に、

私は、第1週＝講習、第2週＝バスケット部合宿引率、第3週＝講習、9・10日＝校舎引っ越し、第4～5週＝お休み、第6週＝出張＋出勤という予定である。

と書いたが、私はほぼこの通りの夏休みを過ごした。講習では、今後のことも含めてセンター対策の勉強法について話した。古文を読めるようになるための簡単な方法などない。正しい勉強法を、諦めずにコツコツと最後まで続けられた人が、結局はイイ結果をものに

するのである。試験場で頼りになるのは自分だけ。とすれば、最終的には自分だけで正しい判断ができる実力をつけるしかない。そのための勉強法を伝授したつもりである（なお、その秘密の方法？は、そう簡単には公開できないので（笑）、知りたい人は講習に出た人に聞いてみることに）。

第4～5週は、タイに出かけてきた。主人の勤務している学校（主人と私の母校）が毎年タイからの留学生を受け入れていて、間もなくそれが40周年を迎える。そこで、記念誌をつくることになり、その準備もかねて主人が卒業生を訪ねてみるようになったのであるが、それに同行させてもらったのである。私はその学校の21期生、主人が22期生で、留学生を受け入れ始めたのが22期生の時だから、私も主人も初期の留学生の何人かとともに高校時代を過ごしているし、その後母校に勤めることになった主人にとっては、教え子たちも大勢いるわけで、久しぶりに会って懐かしい母校の話に花を咲かせることができた（留学生たちは当然のことながら日本語が堪能である）。

タイ語は発音も文字も難しく、かなりハードルが高い上に、現地では英語が通じにくいこともあって、主人と二人だけでブラブラできたのは有名な観光地だけであったが、留学生諸君が色々な場面で世話をしてくれて、地元の方が訪れる安くて美味しいレストランとか、個人ではとても訪ねられそうもない場所を案内してくれたりして、イイ旅行をすることができた。ただし、タイ料理だけは最後まで馴染めなかったなあ…（笑）。